

大雨や台風の気象情報に注意して 早めの防災対策・避難行動を

日本には、毎年十数個の台風が接近・上陸し、強風と大雨をもたらします。特に、傾斜の急な山や川が多いところでは、台風や前線による大雨によって、がけ崩れや土石流、川の氾濫などが発生しやすく、人々の生活や生命が脅かされるような自然災害が、毎年のように発生しています。

また、近年では短時間に狭い範囲で非常に激しく降る雨も頻発しています。特に道路が舗装された都市部では、川の急激な増水、道路や住宅の浸水といった被害も発生しています。

※写真は昨年8月に発生した広島市の土砂災害（安佐南区八木地区）

国土交通省 <http://www.mlit.go.jp/river/sabojirei/h26dosha/h26dosha.html> より抜粋

○土砂災害に警戒を

土砂災害は、土砂災害警戒区域内で約6割が発生するといわれています。

市ではハザードマップを全戸に配布し、土砂災害への備えを呼び掛けています。

実際、被害が起こりうる大雨などの際には土砂災害警戒情報などが発令されますので、気象情報を活用し、自らの判断で、早め早めの避難をお願いします。

○気象情報を活用して、大雨や台風への備えを

災害から身を守るためには、普段から災害に対する備えをしておく、危険を感じたら早めに避難するなど、身を守るための行動を起こすことが重要です。それに役に立つのが、気象庁などが発表している気象情報です。テレビやラジオ、インターネットなどで最新の気象情報を入手するよう心掛け、早め早めの行動を取るようにしましょう。下記のホームページなどで雨量や河川の水位、土砂災害に関する情報などが確認できます。※テレビのデータ放送なども有効にご利用ください

○宇都宮地方気象台ホームページ：<http://www.jma-net.go.jp/utsunomiya/>

気象注意報・警報、土砂災害警戒情報の発表状況

レーダー・ナウキャスト（雨の分布状況と1時間先までの予測状況など）、台風情報

○栃木県ホームページ

とちぎリアルタイム雨量河川水位観測情報：<http://www.dif.pref.tochigi.lg.jp/>

県内の降雨状況、秋山川や渡良瀬川など地元河川の水位がわかります。

とちぎ土砂災害警戒情報：<http://www.dif.pref.tochigi.lg.jp/dosya/login.asp>

土砂災害の危険度情報など



災害から自分たちの家族と地域を守るために

○ハザードマップを活用しましょう

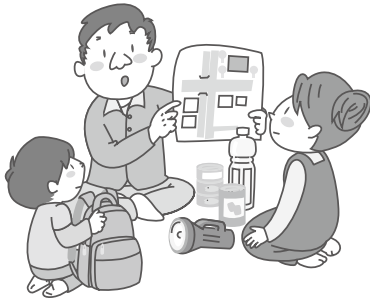
市では平成26年12月に、土砂災害危険個所の情報などを更新したハザードマップを全戸配布しました。

このハザードマップは、市内全域の土砂災害危険個所や浸水の恐れがある地域を示すとともに、避難場所などを掲載しています。

日頃から災害時の危険箇所や避難場所を確認しておきましょう。



○家庭で防災について話し合おう



災害時には、家族全員が協力し合うことが求められます。家族で防災について話し合う機会を持ちましょう。こうした**家族防災会議**は一度で終わりにするのではなく、定期的に行うことが大切です。

【家族一人ひとりの役割分担を確認】

いざというとき誰が何をするのか決めておきましょう。高齢者や乳幼児などがある場合は、誰が支援の中心になるのかも話し合っておきましょう。

災害時の連絡方法や避難場所の確認	家族が離ればなれになったときの連絡方法を決めておきましょう。
非常持ち出し品を準備	家族構成を考え、最低でも3日分は用意しましょう。 また、非常持ち出し品の置き場所を決めましょう。 
部屋の中の安全を確認	 家具の転倒や落下、配置をチェックし、危険な箇所があれば安全対策を講じましょう。

○自分たちのまちは自分たちで守りましょう～自主防災組織～

大災害が発生すると、交通機関の寸断や同時に多発する火災などにより消防や警察などの防災機関が十分に対応できなくなります。阪神大震災や、東日本大震災では実際にそうした事態となり、地域ぐるみの協力体制「自主防災組織」などが初動体制において大きな役割を果たしました。



日頃から、住んでいる地域の防災組織の情報などに耳を傾け、いざというときの活動に参加できるような心構えをしておきましょう。

※市では、全町会に「自主防災組織」をつくっていただくことを目標にしています

※市や消防本部では、町会などに出張講座を行っています

(←平成26年11月・堀米町菊川町会で実施された佐野市消防本部との防災訓練)

■問合せ＝危機管理課 ☎(20)3056